

平成30年度
新東名高速道路建設に伴う発掘調査

よこのさんのうばらいせき 横野山王原遺跡

主催 公益財団法人かながわ考古学財団
共催 秦野市教育委員会

地層に刻まれた歴史

横野山王原遺跡の発掘調査

秦野市横野に所在する横野山王原遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴い発掘調査を実施しています。この遺跡の位置は将来サービスエリアが建設される地点であり、広範囲に及んでいます。

2014(平成26)年10月から着手した本発掘調査は5年目を迎え、縄文時代草創期から江戸時代にいたるまでの数々の遺構や遺物が発見されています。

縄文時代では、狩猟のために掘られた陥し穴状の遺構や調理施設の集石遺構が発見され、周囲には土器や石器などの遺物が出土しています。

奈良・平安時代の調査では、硬く踏みしめられた道状遺構なども発見されています。

この遺跡で特に注目される遺構は、「宝永火山灰の廃棄土坑(溝)」です。

江戸時代の中頃 1707(宝永4)年、富士山大噴火によって一帯の畑地が火山灰で覆われました。この畑地を復旧した痕跡が遺跡全体で発見された廃棄土坑(溝)であり、当時の人々の多くの苦労が偲べれます。

地層に刻まれた大地の豊かさを感じていただき、郷土の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



空から見た横野山王原遺跡(西から) 発掘調査は、宝永火山灰の検出から始まります。表土層を掘削すると幾筋もの灰色の溝跡が見えます。この溝は江戸時代前半までさかのぼり、1707(宝永4)年に噴火した富士山の火山灰を処理した廃棄溝と土抗です。大噴火は、現在の暦で12月16日から約半月間続き、秦野地方にも甚大な被害をもたらしました。当時は、「砂降り」と呼ばれ、古文書では、「大住郡の村々石・砂1尺4・5寸」(約45cm)、「田畑山野一面砂場」と記されています。田畑を復旧する様子は、「砂うなへくるみ」(砂を鋤いて包む)、「ほりうずめ」(掘り埋め)などと表現され、火山灰と耕作土を入れ替える天地返しが行われていました。



調査区土層(1)

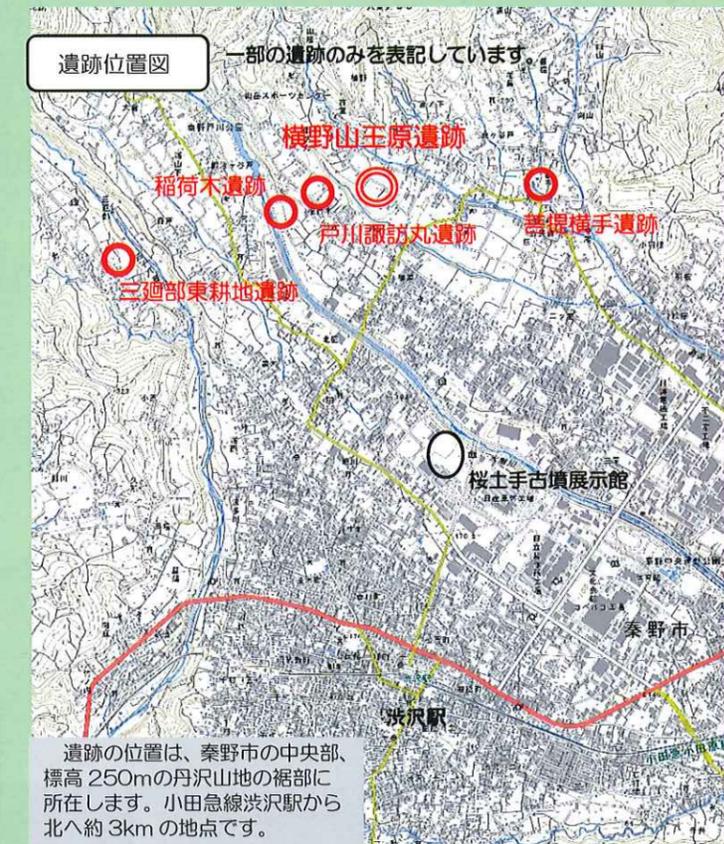


地震によって溝が横滑りしています。

調査区土層(2)



東西に連続する廃棄土坑(溝)断面です。



遺跡の位置は、秦野市の中央部、標高250mの丹沢山地の裾部に所在します。小田急線渋沢駅から北へ約3kmの地点です。



測量・記録作業

住居跡や陥し穴などの遺構、土器や石器などの遺物は、検出状況や埋没過程の特徴を詳細に記録します。写真撮影や出土位置の測量を行い、記録保存に向けた調査を進めていきます。



平成30年度
新東名高速道路建設に伴う発掘調査
横野山王原遺跡見学会資料
2018年12月1日
主催 (公財)かながわ考古学財団
共催 秦野市教育委員会
〒232-0033 横浜市中区中村町3-191-1
Tel.045-252-8689 <http://www.kaf.or.jp>



【宝永火山灰の廃棄溝（土抗）の断面】

江戸時代の中頃、宝永4（1707）年に噴火した火山灰の廃棄溝（土抗）です。

右の遺構配置図は調査成果の一端です。上図は地震によって東西方向に層すべりを発生した5区北側の土層の断面です。



【縄文時代草創期石核】2点

石器の素材(剥片)を製作するための原料(石核)で、石材は、丹沢山系の「硬質細粒凝灰岩」です。剥片を叩き取った痕跡がみられます。



【縄文時代中期土器】

中期初頭の五領ヶ台式土器、遺跡の基本土層Ⅶ層下面から出土しています。深鉢の口縁部で一部分が片口鉢のようにへこみがあります。



表 裏

【縄文時代中期初頭の垂飾具】

深みのある緑色をした蛇紋岩製の垂飾具(ペンダント)です。端部には片側から径4mmの孔をロウト状に開けたのち、全面を丁寧に研磨しています。威信材としても輝きを放つ存在だったのでしょう

(長さ7.8cm、幅1.2cm、厚さ0.4cm、重さ10.2g)



【写真撮影】

発掘調査は、遺構・遺物の正確で詳細な調査による記録保存が基本となります。全景などは高所から広範囲に撮影します。

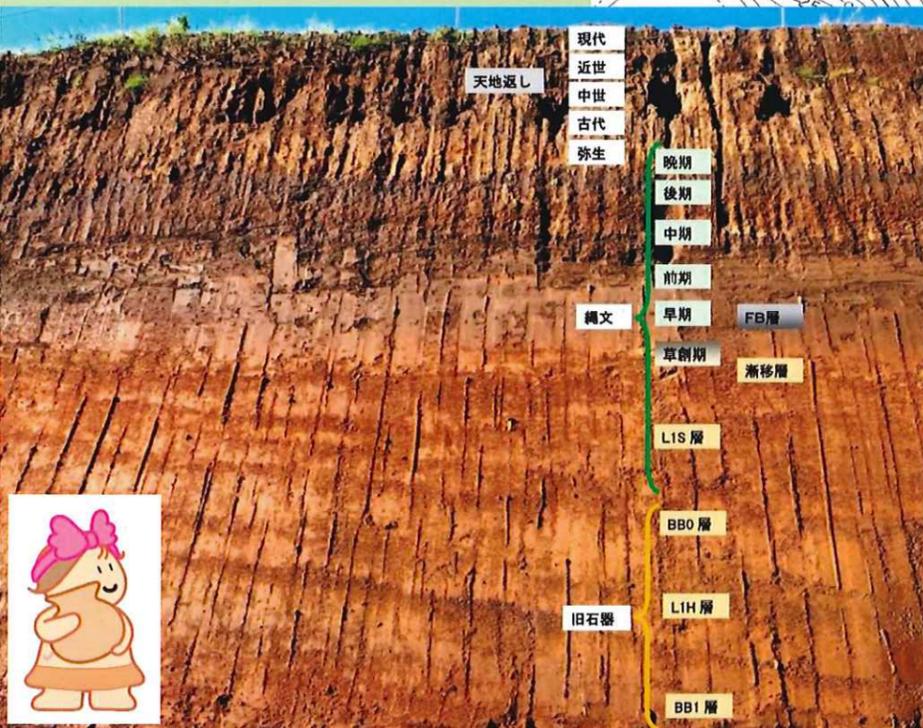


※宝永火山灰の廃棄作業の様子(作図 土砂崩埋蔵) 畑地を復旧するために天地返しを行い、下層の良質な土を宝永火山灰に掘り上げました。しかし、宝永火山灰の空隙率は大きく、畑地の保水力は落ちたようです。



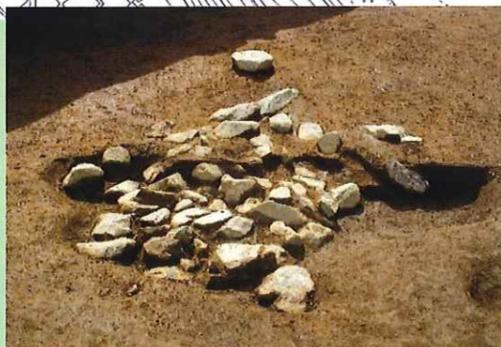
【8区全景】

近世面の調査。細長く掘ったところが宝永火山灰の廃棄溝(土抗)です。※左図の発掘調査の状況となります。



【地層の堆積状況】

5区の西側を南下する矢坪沢に面する北側の地層です。現代の表土から関東ローム層の約2万年以上前まで堆積し、12層に分層しています。



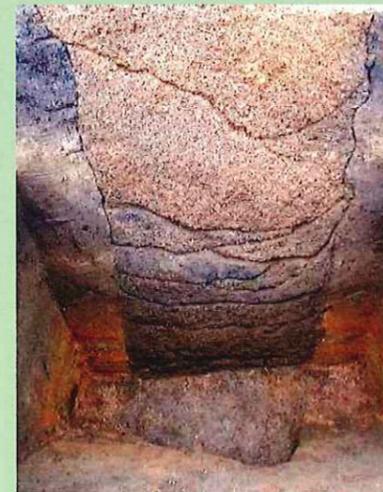
【集石遺構】

地面を掘りくぼめ、一定の大きさの礫を集めています。調理施設と考えられ、熱を受けた痕跡があります。



【配石遺構】

大形の石を一定の形状に配置した遺構です。下部に穴を掘った例は、遺骸を納めた可能性が高く、墓標と考えられます。



【弥生時代の陥し穴】

基本土層第Ⅳ層から掘り込んだ土抗です。中央の縦長の痕跡が陥し穴断面の土層堆積で、平面形態は長方形です。

